

# 有機栽培における春まきブロッコリーの虫害軽減技術

福島県農業総合センター 浜地域研究所

部門名 野菜 - ブロッコリー - 作型・栽培型、病害虫防除  
担当者 水野由美子・常盤秀夫

## 新技術の解説

### 1 要旨

春まきブロッコリーの有機栽培では、アオムシ、ヨトウムシ等による虫害の発生が著しく、化学農薬以外の虫害対策が必要となる。今回、虫害軽減技術として以下の2つの方法が有効であることを確認した。

#### (1) 収穫時期の前進による虫害回避

相双地方の春まきブロッコリーは、128穴セルトレイで約1ヶ月育苗し、遅霜の危険性の少ない4月10日以降に定植して、6月10日頃から収穫となるが、無防除では虫害が多発する。そこで、播種時期を早めて16穴連結ポットで約1ヶ月半育苗した大苗(本葉5.2枚)を4月10日に定植したところ、収穫は慣行セル苗よりも2週間程度(5月下旬)早まった(図1、表1)。収穫物の虫害廃棄率は、慣行セル苗4月上旬定植では30~60%であったが、大苗4月上旬定植では20~30%であり虫害が軽減された(図2)。

#### (2) 被覆資材による虫害回避

防虫ネット(商品名「サンサンネットEX-2000」:1.0mm目合、透光率90%)、不織布(商品名「パオパオ90」:透光率90%)を用いて被覆栽培を行い、収穫物の虫害廃棄率を調査したところ、無被覆では60%であったのに対し、被覆栽培ではいずれの区もほぼ0%であった(図3)。被覆作業は、不織布べたがけが簡単で省力的であった。

### 2 期待される効果

(1) 当技術の導入により虫害が軽減され、ブロッコリー有機栽培における商品化率が高まり生産性が向上する。

### 3 適用範囲

露地野菜有機栽培農業者、新規の露地野菜有機栽培農業者、露地野菜化学農薬・肥料低減農業者

### 4 普及上の留意点

- (1) 定植時期は遅霜の危険性の少ない時期とする(相双地方4月10日以降:平均気温10℃以上)
- (2) 不織布をべたがけする際は、地面との隙間から害虫が侵入しないようにべたがけの裾をピン等でしっかりと押さえる。不織布はあらかじめブロッコリーが大きくなる分のゆとりをもたせる(ベット幅1m(2条植え)に不織布幅2.4m程度)。
- (3) 苗に害虫の卵や幼虫がついていないことを確認し、定植後は直ちに被覆する。

## 具体的データ等

### 1. 収穫時期の前進による虫害回避

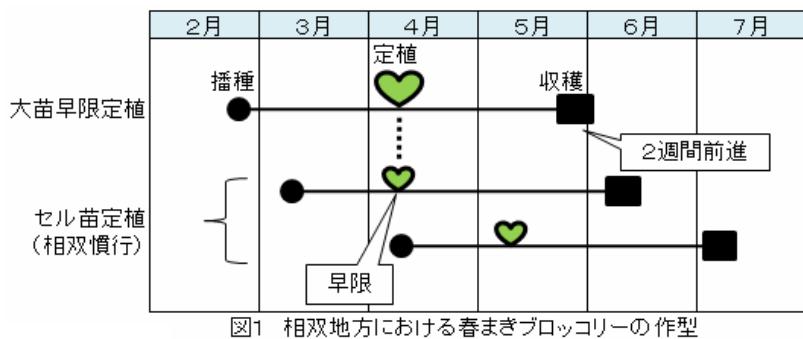


表1 セル苗・大苗の播種、定植日および収穫日

	播種日	定植日	育苗日数	定植時 葉齢	平均 収穫日
慣行セル苗	3月15日	4月10日	26日	2.0	6月12日
大苗	2月23日	4月10日	46日	5.2	5月25日

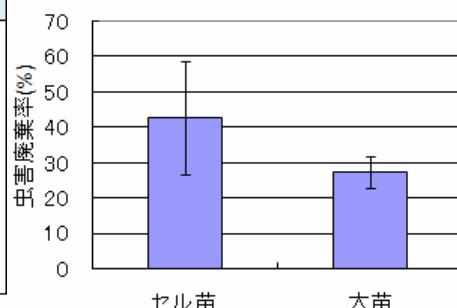


図2 セル苗早限定植と大苗早限定植における虫害廃棄率(2006年)

\*エラーバーは標準偏差

いずれかの方法で虫害を軽減することで有機栽培の生産性が向上する。

### 2. 被覆資材による虫害回避

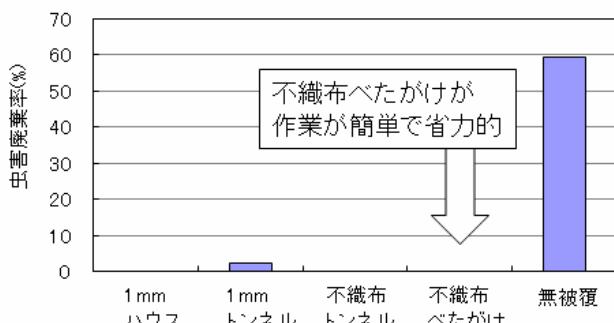


図3 各被覆条件下における虫害廃棄率(2006年)



## その他

### 1 執筆者

水野由美子、常盤秀夫

### 2 主な参考文献・資料

(1) 平成18～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006～2008)